

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び

👉 こんな実践

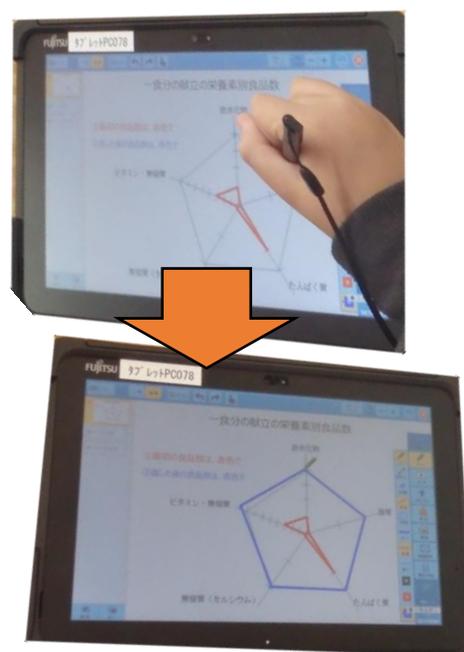
自分が作った献立を、タブレット端末で五つの栄養素ごとに五角形のレーダーチャートに表し、五大栄養素のバランスの面から正五角形になるように意欲的に見直す姿が見られるようになった実践です。

実践学校 J小学校
 実践学年 6学年
 実践時期 1月下旬
 単元・題材名 「まかせてね！今日のごはん」
 学習指導要領との関連：B（3）ア・イ

- 教師が給食の材料を参考にして、五大栄養素の数の目安を児童に示しました。児童は、家族のために自分が作る献立を、五つの栄養素ごとにタブレット端末上の五角形のレーダーチャートに表していきます。

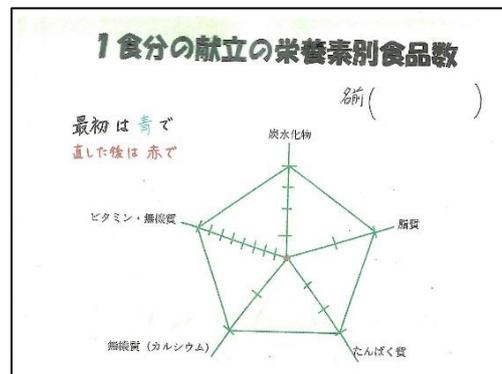


- レーダーチャートに表していくと、自分が作った献立の栄養バランスが悪いことに気付きました。児童は「自分の献立は全然正五角形にならなくてだめだ」「カルシウムがない！」と大きく反応しました。タブレット端末上のレーダーチャートを見ると、栄養素のうち何が足りないのかすぐにわかるため、栄養素別の食材が掲載されている教科書のページを見て、献立を考え直す姿が見られました。



- その後、レーダーチャートが正五角形になるように栄養バランスを考えて、食材を増やしたり減らしたりする姿が見られるようになりました。タブレット端末上で行ったので、容易に修正することもできました。また、友達と相談しながら献立を修正する姿も見られました。

- 自分の献立を見直した後に、学習支援ソフトの一覧機能を用いて、献立とその栄養素のバランスを全体で共有しました。スクリーンにクラス全体の献立案が映し出されたときには、「Aさんは、きれいな五角形になっている」と、すぐにつぶやく児童の姿が見られました。



ここがポイント！

- ・レーダーチャート自体は、紙ベースでもできます。しかし、タブレット端末を用いることで、赤や青などの目立つ色を使えたり、修正を容易にできたり、すぐに個人の考えを全体で共有できるようになったりすることができ、児童が意欲的に栄養バランスをよくすることを考えることができました。

まとめ

- ・タブレット端末を用いて、レーダーチャートを使った授業は、視覚的にわかりやすく、栄養素のバランスが一目でわかるため献立を考え直す活動に有効でした。また、自分や友達との違いや似ているところを見つける手がかりとなり、追究を深めるのに有効でした。